

藩鑑

石川

四十六



庫	文	閣	内
五九	三八	三四	和
一	冊	八	書
二		二	
架		號	

内閣文庫	
番號	和 34682
冊數	278 (47)
函號	159 1

山

藩鑑卷之六十四目錄

い部十七

石川安藝守源清兼

同日劍守源家成

同長門守源康通

藩鑑卷之六十四



石川

安藝守源清兼（いせよかね）の左近大夫忠浦の子か

まはけぬ助十郎と稱す

清康君小はるまゝり後

廣志郷に勤仕す

東照宮に誕生ありせ給ひしとき作小

よりく養目の役をつとむ天文十九年
廣志郷古他界ありく

東照宮涉りく八歳より尾張より之
河玉小還らせたまひまゝ駿河玉今川家小
赴くせだまふとき供をすへき人を名がたま

清兼の嫡孫伯耆守教正をその随一小て
従ひしよりせ清兼の河玉小とすりて古

衣食を駿河國小領りまゝ
清兼の率年
詳ありす

一 天文四年織田信秀

清康君の生害を安大小悦ひ八子人を率
之州小教向一 大樹寺小旗を立岡崎を攻
んとも岡崎勢を以てすく松平義人信孝同十
前之節長忠を支大將より八百餘騎を二子小
多く伊田の郷小出向ひ戦ふ伊田郷八岡崎よ
り十五六町あり部を八子を引け田方野方
とも小はちつ備ふ味方もまゝて野方四百

田方里百餘り款大樹寺小出るといふ其を遣む
信秀國邊の激勢を悔りて野方の口首を
甲子の大军少くをなき位を礼りて親不
石川清兼酒井正親等心を一致しりて挑み
戦ひし六尾軍を討捕りて百六十級を小
をいりて勝國城あけりて張堂を遣居りて他川邊
末記

治世元記

一 清康君うせたまひしり

廣忠郷伊勢國小出させたまひしり石川
清兼酒井正親安信定吉等と縁りて終小
むく入をまじり藩幹傳
之周記

一 天文十年辛丑冬十一月光長酒井雅樂助正
親石川安藤吉清兼同伯耆守安信定吉等お
後しりて之州刈屋の城を水野右衛門守力改り
女を遣りたまひ

廣忠君の夫人とす大之川志
之河武道記

一 東照大権現様の古事ハ

廣忠公の御子少く天文十一年壬寅十二月

廿六日之州岡崎の古域小をりく御誕生あり

はる古堂名を

竹下代君と申さるり古母公も同出川念の

城至水野御座り又忠政の古息女あり右古誕生

の古名石川女藤吉清兼古養目作付あり

たると 異本落穂集

一 天文十二年十月清康家の元老酒井将監

忠尚と同姓河内守家次同姓雅樂助正親石

川女藤吉清兼確執を生す将監折を得く

廣忠君ハ清兼家次柱を忠小〜〜女母あり

渠等を殺逐〜〜終に群臣一致〜〜忠を竭

せん〜〜を訴ふ然も忠尚も終使〜〜こと

を知り〜〜肯ひ終に印〜〜忠あり女母係を

終めらる將監報終〜〜〜〜返さけらる

廣忠君を恨じし事小あぶらをと以て斬り殺
居しといへども遂小出はと法兼正親の君のた
め小私の怨を隠し忠告と等米あくと小
公務を沙汰す 國朝大業廣記
三河米秀記

一 松平藏人信孝

廣忠卿を還任せしめ今度まじ片目をつき
殺す功美大あふしりく柱小つりの威を擅
小一驕奢の心あま令才十部之部死まの

後其遺臣をあはせ候まふしりく信孝の臣
分是時候ふいしり石川清兼酒井安信権
村等と候しり曰く一家の大才の部と害と
あるものなるに序を以て信孝を追出さんと
しり各りの儀は同き年始の各代しり信孝
を駿府へ遣りし其時小く信孝の臣を追
捕し所領を没収し信孝駿州より歸りし
大まふ驕奢の我日し忠切人小務まらふし

人々をなほむく又阿信大藏逆罪をなほ
威を擅小す我常小是をぬくは小
阿信所行くは大き怒りく是能を決せ
久しと詞をつくして

廣忠郷へ所さすいとも許卷あり信孝
駿州さす義元小是を所ふ義元さす
室子酒井雅樂助石川安藤と阿信大藏極
村新の部を呼く是んを加へらるるといとも

是小應世と信孝是能小及る松平之在侍
を教ふ信孝小属一終小是の城小たて死る
之河記大全

一 天文十六年松平藏人信孝叛きて織田信秀
小属一所く小岩を捕へ之河吉良大瀨小
教火一岡崎城孤立しく危なりしは
廣忠郷今川義元小加勢を乞ひ終りんとあ
りく石川安藤と清兼天野基直と日暮隆

作をうけ駿河は小いながら義元は對面
一車の攻めをのけし義元は信孝
親族とも織田家と心を合せ同族を恨ん
とすうこそ安らぬ我今ふも任せく加勢
容易く追討せん人々のうらやまを
かく疑ひを生か易く勝利を得ぬ
車輪も今折るに結ひてのら加勢の
兵を出さんふも實は出さるる

の法兼等ならぬてこそ一はし
廣忠郷とかく思ふやまをいさ
かしくそはし

竹久代君とて歳ふたむせ給ふを質として駿
河を送らせらるる一うらやまを途中より織田
信孝のうらやま捕まはせ給ふ
三河本末記 大之川志
伊東法伴物語

一廣忠郷石川安藤を法兼を駿府小をハ一愛
子尾州の虜とす車一不祥とす少を給ふ

とも約するも何れも要すべし

竹千代を棄てて堅く義元小属せんと告ぐ
義元大に感激しつゝこの人質小及しす
追身出陣しつゝ岡崎の難を救ふんと誓ふ

國朝大業廣記

一 天文十七年四月松平藏人信孝尾州の軍
征するを聞き我兵を以て岡崎を攻んと
する信人を信し明大寺表し出る石川清兼

酒井正親等討つに向ふ時方らに射りて千
人を殺す所の少坂小伏多し信孝是を聞き
明大寺と出く兜山小伏多し伏兵起りて
矢以敵つ敵進むよりあはれを明大寺と小内
とすす所小石川清兼等押寄せ前後より射
る終小大將信孝夫小あはれに死す殘兵
少く敵少し及し

廣忠君石川酒井等の功を賞し終る
三國記
卷四十五

一 天文十八年今川義元之河の安祥を攻んと
惣兵二万餘を率ひて進發せしむ小兵を分
て丹下若照寺中務之域の押とて既小兵を
進め安祥を圍む信長是を察し安祥の
兵房少ありとて平手申務政秀を將とし
兵を率ひて是を援く今川の將除瀚寺
長光雪斎ハ信長の援兵到りて守て道乃

傍小伏兵を設け是を待て遮り城兵を
て殺し其とき一齊小伏を一挙して勝利
を得んと岡崎の將石川清兼酒井忠次等
一一道小伏を設け雪斎等も相合其圍攻
しむる小形曲を定めて安祥小邊り尾州の
援兵安祥小入んとすとき小伏兵邊り起り
て是を遮り織田信廣元とて統勇たると
兵を率ひて城を攻め援兵を城中へ入

と精力を以て相戦ふ三州の兵酒井
忠次石川清兼等以下中三騎馬をもとり
鎧を振る勇戦も元兵益氣を勵し三方
を以て扶けし信廣勢い窮りし城中小逃
去り加けて安祥の城を去るの後

竹ノ末代君國崎小還ふ世なふ 三川系考記
大三月志

一 天文十九年

廣忠郷は他界

大権現古く八歳少く尾州も三州へ
歸ふ世なふしすかち駿州へ赴む世給
ふとき世なすま人を控ひしつてなむ其
うら清兼嫡孫伯耆守其随一少くは世に
一 清兼ハ三州小のころ少くよりくは衣食難
事等をおもひ駿州へ進ふも 寛永譜
一 永祿元年正月今日義元
神祖小謂く曰くぬ三州を郷く世々の封地

たると能くも士良者近年多く尾州志を
通す何れも打捨く至るや早く軍を出して
是を攻撃し教世忠誠の爲長小興ふべし
ありけり

神祖大志喜ひ給ひ二月暇を義元小つけ
是時一還城し給ふ累代の法良も在り
てお賀も寺於城を給ふ日同書重教當時
義元を賞する尾州も屬する力小よつを

及んとす日

神祖始めて戦陣小隙を給ひ法良の軍
令を定り馬小許し弓箭を持せし志氣
凛々として威風凛々として出給ひしとて將
校士率小もりしとて勇力常小十倍として
先陣小も湯井雅樂助正親石川安藝守法
兼士率を指揮して寺於城を攻め圍み外
郭小火を放ちけりしとて忽ち火煙ありて

丸を残りしを急不攻め伐つ城兵棄てく
出く拒き致ふといへども遠兼等勇を拒ひ
款を迫入と二三の丸をせり破り首級斬り半
百解級小及ふ城將重教力屈く僅小丸
小灣む 大之川志

一 永祿元年正月織田信秀

神君の岡崎小歸りなふをばくくぬ之州の
麾下の城寨小加勢を全守宗の儀とな

す

神君兵を發くく廣瀬城を攻む城主之宅
在遠末の信長の命を交くく外を寄る津田
兵庫神戶基平等援兵くく加り拒き
致ふ時小寺款の終小重教奉母の板倉某
及ひ中島丹下四城くくも右兵を出し軍
勢當くくく我々軍陣の容解を奪り
城兵危くくしを物人と奪を奪りく進す

石川清兼をせんく

神君小中て曰く

公今始く陣小除もせふと支日勝利を得た
まふ事減小王家の福ありつゝ今も勝利
を保つ也

神君是れ小中を以て國邊小歸り
なすし其四月十二日中へ駿州小赴きたる

國朝大業廣記
武徳編年集成

一 永祿元年老臣石川安藝守清兼本多無量後
書廣言天野基在處の景隆等駿河小おつり
之箇條を訴ふ一也

徳川殿是清小正城を許し終る老臣
等入質を駿城小納むし事一之小今月
是清城への左邊を止るし事一之小額田
郡是清賀茂郡山中の知行分變く返し
賜言し事一は越額小赴ひけさるも義元

十二年康通年一其子助十師幼か
ありふらふ家成もこの事を行執行い美
濃公大垣城に移り住む同十四年十月
廿九日七十の歳少く卒せり

一 永祿四年七月

神祖石川家成後井の松平信一少令一と
山中の道小石を架く長澤城を攻む
家成信一も城星堅

圓ふくくいふ溜ふも

神祖半久保を攻むの終い歸路長澤を
過終ふもく諸軍少令を傳へ長澤の款
兵我り過るを令へ必をも出く遮り一
御ももく及路険阻小く進退甚便ある
へもも兵を二隊小かつ一とく御ら二隊小
か一隊山下の小道を過き一隊ハ
神祖自ら率く山の南を越終ふもく一

城中俄小燈起り我兵の山下を過りて是
を奪りて山南の我兵火を放りて攻り入り
思ひ急小進んぐ攻めり麾下の兵もこの火を
見ても小進んぐ齊く城壁小迫りせむ
其勢ひ多う入りて家成信一も

神社自ら来り接り終ふと思ひも小
氣を得りて進み競い攻りて城兵大に周
走り防ぎ事能く致さる者なまあり

大之月志

一 永福六年三州一向宗蜂起のとき石川日向
守家成一族彼つ徒ら小入りて過半欲小入
るといへども家成は宗旨をわたり軍力を勵
ます是れ小入りて味方小集りてあはれあり
其後宗門の徒罪を免さる

神君はと和田の淨教院小波治せりて
自今以後徳士宗門を棄てて庵り小居り

忠を竭きしき旨起程文を書し〜加つて家
城僧徒小幡小波追込下案内〜石川
日向守家成ハ言須口〜土呂若秀と
系入り〜一揆大小周章〜けりを家成
大喜小水野野州汝等半を斬り小嘆所
まゝの由一小嵐重の仕を下さす寛仁の
政を施行〜一揆等罪を許し終りしを
呼ぶ〜一六凶徒ハ干戈を投げ飲躍〜仰

ちぬ服と 國朝大業廣記

一 石川日向守家成ハ後殿使を以抑せ家成ハ
永祿七年三州設樂郡一宮の城小本多百
助を籠るまでけり小今川氏直二万と〜
浩与

公廿二歳の頃あり〜つら二子條と〜後浩と
〜して武田信虎小八子
の人殺をせし〜是を押しんと〜遠州元目